

前回の原子力安全・避難計画等防災専門委員会資料（平成30年3月29日開催）の訂正について

○資料1-2「これまでの委員からのご質問への回答について」21ページ

(誤)	(正)												
<p style="text-align: center;">2. 安全性向上評価について</p> <p style="text-align: center;">(3) 安全性向上評価届出書の内容</p> <p style="text-align: center;">第3章 安全性の向上のため自主的に講じた措置の調査及び分析</p> <p style="text-align: center;">1) 確率論的リスク評価(PRA)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(/炉・年)</p> <p>炉心損傷頻度</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(/炉・年)</p> <p>格納容器機能喪失頻度</p> </div> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">*1、2号共に同じ値</p> <p>従来から自主的に取り組んできた重大事故(SA)対策及び新規制基準への適合のための重大事故対策によるリスク低減効果が確認できた。 PRA結果から抽出した安全性向上対策を下表に示す。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #0056b3; color: white;">主な安全性向上対策</th> <th style="background-color: #0056b3; color: white;">期待される効果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">重要シナリオに対する教育・訓練の強化</td> <td>事故時の重要シナリオに対する運転員の意識を高め、事故対応能力を向上できる。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">メタクラ保護継電器のデジタル化</td> <td>耐震信頼性向上により、地震時のリスクを低減できる。 ・炉心損傷頻度 : 1.7×10^{-6} (1.5×10^{-6})[*] → 8.5×10^{-7} (6.6×10^{-7})[*] ・格納容器機能喪失頻度 : 1.5×10^{-6} (8.7×10^{-7})[*] → 6.3×10^{-7} (5.1×10^{-7})[*] </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: x-small;">* ()内の数値は2号の評価結果 2 1</p>	主な安全性向上対策	期待される効果	重要シナリオに対する教育・訓練の強化	事故時の重要シナリオに対する運転員の意識を高め、事故対応能力を向上できる。	メタクラ保護継電器のデジタル化	耐震信頼性向上により、地震時のリスクを低減できる。 ・炉心損傷頻度 : 1.7×10^{-6} (1.5×10^{-6}) [*] → 8.5×10^{-7} (6.6×10^{-7}) [*] ・格納容器機能喪失頻度 : 1.5×10^{-6} (8.7×10^{-7}) [*] → 6.3×10^{-7} (5.1×10^{-7}) [*]	<p style="text-align: center;">2. 安全性向上評価について</p> <p style="text-align: center;">(3) 安全性向上評価届出書の内容</p> <p style="text-align: center;">第3章 安全性の向上のため自主的に講じた措置の調査及び分析</p> <p style="text-align: center;">1) 確率論的リスク評価(PRA)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(/炉・年)</p> <p>炉心損傷頻度</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>(/炉・年)</p> <p>格納容器機能喪失頻度</p> </div> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">*1、2号共に同じ値</p> <p>従来から自主的に取り組んできた重大事故(SA)対策及び新規制基準への適合のための重大事故対策によるリスク低減効果が確認できた。 PRA結果から抽出した安全性向上対策を下表に示す。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="background-color: #0056b3; color: white;">主な安全性向上対策</th> <th style="background-color: #0056b3; color: white;">期待される効果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">重要シナリオに対する教育・訓練の強化</td> <td>事故時の重要シナリオに対する運転員の意識を高め、事故対応能力を向上できる。</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #0056b3; color: white;">メタクラ保護継電器のデジタル化</td> <td>耐震信頼性向上により、地震時のリスクを低減できる。 ・炉心損傷頻度 : 1.7×10^{-6} (1.0×10^{-6})[*] → 8.5×10^{-7} (6.6×10^{-7})[*] ・格納容器機能喪失頻度 : 1.5×10^{-6} (8.7×10^{-7})[*] → 6.3×10^{-7} (5.1×10^{-7})[*] </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: x-small;">* ()内の数値は2号の評価結果 2 1</p>	主な安全性向上対策	期待される効果	重要シナリオに対する教育・訓練の強化	事故時の重要シナリオに対する運転員の意識を高め、事故対応能力を向上できる。	メタクラ保護継電器のデジタル化	耐震信頼性向上により、地震時のリスクを低減できる。 ・炉心損傷頻度 : 1.7×10^{-6} (1.0×10^{-6}) [*] → 8.5×10^{-7} (6.6×10^{-7}) [*] ・格納容器機能喪失頻度 : 1.5×10^{-6} (8.7×10^{-7}) [*] → 6.3×10^{-7} (5.1×10^{-7}) [*]
主な安全性向上対策	期待される効果												
重要シナリオに対する教育・訓練の強化	事故時の重要シナリオに対する運転員の意識を高め、事故対応能力を向上できる。												
メタクラ保護継電器のデジタル化	耐震信頼性向上により、地震時のリスクを低減できる。 ・炉心損傷頻度 : 1.7×10^{-6} (1.5×10^{-6}) [*] → 8.5×10^{-7} (6.6×10^{-7}) [*] ・格納容器機能喪失頻度 : 1.5×10^{-6} (8.7×10^{-7}) [*] → 6.3×10^{-7} (5.1×10^{-7}) [*]												
主な安全性向上対策	期待される効果												
重要シナリオに対する教育・訓練の強化	事故時の重要シナリオに対する運転員の意識を高め、事故対応能力を向上できる。												
メタクラ保護継電器のデジタル化	耐震信頼性向上により、地震時のリスクを低減できる。 ・炉心損傷頻度 : 1.7×10^{-6} (1.0×10^{-6}) [*] → 8.5×10^{-7} (6.6×10^{-7}) [*] ・格納容器機能喪失頻度 : 1.5×10^{-6} (8.7×10^{-7}) [*] → 6.3×10^{-7} (5.1×10^{-7}) [*]												

以上